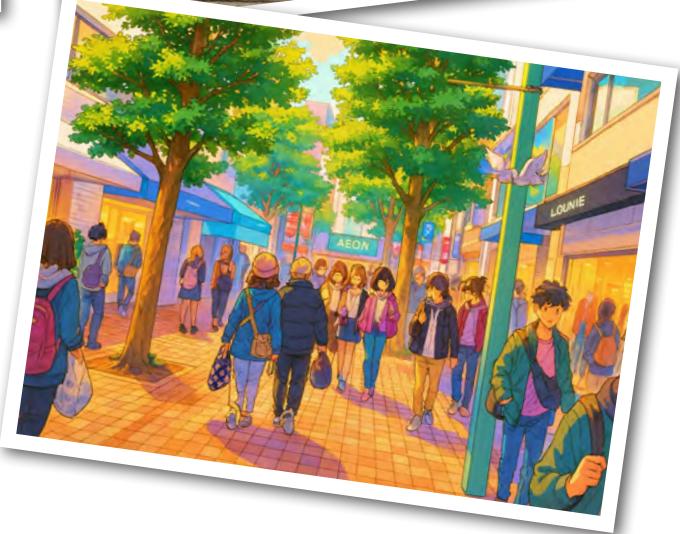


新たなる可能性を創造しよう 次世代へ繋ぐために

SHIZUOKA 12

県PTA新聞 第531号 2025



こども たちに 笑顔を

12月号 ➤ 主な内容

- ◆令和7年度 ネット・スマホ安全標語コンクール 入賞作品決定
- ◆令和7年度 静岡県P連 年次表彰被表彰者
- ◆第13回「小さな親切」作文コンクール入賞者決定（「小さな親切」運動静岡県本部）
- ◆令和7年度 「小さな親切」あいさつ運動 協力校のとりくみ
 - 松崎町立松崎中学校区 静岡市立長田南中学校区
 - 川根本町町立三ツ星学園・光の森学園 浜松市立丸塚中学校区
- ◆東から西から 単P紹介
 - 御殿場中学校（御殿場市） 賢機中学校（静岡市） 相生小学校（浜松市）
- ◆令和8年度 主な行事

連絡先

静岡県 PTA 連絡協議会
〒 420-0856 静岡市葵区駿府町 1-12
☎ 054(253)8223

開局時間

平日 10:00 ~ 17:00
※平日で閉局になる場合があります。
HPをご覧下さい

静岡県 PTA 検索



静岡県 PTA 連絡協議会

令和7年度

**ネット・スマホ
標語コンクール**

入賞作品決定

本年度も各学校より合計11,346名もの応募をいただき、誠にありがとうございました。県PTA連では今後もネットやスマホを安心安全に活用するための意識を広く深めていただくことを目的に引き続き作品の募集を行ってまいります。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

小学生の部	静岡県教育長賞	袋井市立袋井南小学校4年	金山 凜華	そだんは機械じゃなくて 家族にね。
	静岡県校長会長賞	掛川市立曾我小学校5年	加藤 伊織	「あと10分」 知らないうちに 1時間
	静岡県PTA連絡協議会会长賞	森町立森小学校4年	山田 浩都	あなただれ？ そんな人とは つながらない
	優秀賞	藤枝市立青島小学校3年	福本 結空	やめなさい そう言う大人は やめてるの
	優秀賞	島田市立六合小学校4年	熊田 峻	SNS書かない 押さない 広げない 困った時は かくさない
	優秀賞	浜松市立初生小学校6年	加藤 丈佳	ごはんです スマホをとじて いただきます
	優良賞	下田市立浜崎小学校6年	土屋 愛海	プライバシー 宝と思い あつかおう
	優良賞	東伊豆町立熱川小学校5年	太田 乃愛	その言葉 載せたらずっと 残る傷
	優良賞	藤枝市立大洲小学校4年	市川 昊青	朝起きて 見るのはスマホ？ まず太陽
	優良賞	浜松市立気賀小学校4年	名倉 舜	スマホおき 家族で話そう 今日のこと

中学生の部	静岡県教育長賞	焼津市立小川中学校3年	加藤 結唯	あのねまま スマホじゃなくて わたしみて
	静岡県校長会長賞	藤枝市立葉梨中学校1年	尾崎 彩香	その言葉 誰が読んでも 同じ意味？
	静岡県PTA連絡協議会会长賞	静岡大学教育学部附属浜松中学校2年	橋爪 美音	言葉の銃 画面で隠れた スナイパー
	優秀賞	沼津市立第三中学校3年	武田 真蔵	スマホ時間 減らして増やそう 家族の笑顔
	優秀賞	沼津市立門池中学校2年	佐藤いづみ	情報は 他人を思って 世に出そう
	優秀賞	掛川市立大須賀中学校3年	森下 結夏	SNS 時間制限 母の愛
	優良賞	裾野市立深良中学校1年	古郡 佑菜	「ちょっとくらい」 ネットはそれを 見のがさない
	優良賞	島田市立川根中学校1年	神尾 藍來	ネットでも 書いていいのは ありがとう
	優良賞	牧之原市立榛原中学校3年	植田 貴帆	スマホ依存 冷めたご飯は いつ食べる
	優良賞	磐田市立神明中学校1年	寺本 彩七	その発信 面白いのは 自分だけ

保護者・教職員の部	静岡県教育長賞	富士宮市立山宮小学校	近藤居代里	気付いてる？ AIにはない 家族の愛
	静岡県校長会長賞	熱海市立第二小学校	八代 直也	見て聞いて 感じた知恵は 生きる糧
	静岡県PTA連絡協議会会长賞	富士市立吉永第二小学校	伊藤みゆき	約束や マナーを守って スマイル スマホ
	優秀賞	函南町立東小学校	栗原 大輔	育てよう スマホ使って 自制心
	優秀賞	静岡市立長田西小学校	海瀬安紀子	気がつけば 余暇を乗っ取る 我がスマホ
	優秀賞	藤枝市立西益津中学校	原木麻美子	スマホ閉じ 目を見て話す 心のつながり
	優良賞	伊東市立門野中学校	栗原 拓也	あなたの感性信じよう AIよりも優れてる
	優良賞	富士宮市立富士根南中学校	望月麻奈実	スマホ時間 減らしてつくろう 家族時間
	優良賞	藤枝市立青島小学校	佐藤みなみ	目の前の 人にも言える？ その言葉
	優良賞	御前崎市立浜岡中学校	奥柿 美穂	スマホ止め 楽しく食べる タごはん

**令和7年度
静岡県PTA連
年次表彰 被表彰者**

令和7年度 静岡県PTA連絡協議会年次表彰被表彰者決定しました。
日頃よりPTA活動を通して児童生徒の健全育成や地域教育活動に尽力されている個人・団体の方々です。

表彰に際し、私たちは被表彰者の皆様に心より感謝の意を表します。皆さまの日々の活動は、

子どもたちが安心して学び健やかに成長できる環境づくりに欠かせないものであり、その献身的な取り組みは、多くの子どもたちや保護者、地域社会に希望と喜びをもたらしています。

団体表彰 特色のある活動を展開したPTA (36団体)

・東部地区

賀茂地区	西伊豆町立賀茂小学校 PTA
賀茂地区	東伊豆町立稻取中学校 PTA
田方地区	函南町立桑村小学校 PTA
田方地区	伊豆の国市立大仁小学校 PTA
伊東市	伊東市立池小学校 PTA
熱海市	熱海市立熱海中学校 PTA
三島市	三島市立山田中学校 PTA
南駿地区	清水町立清水小学校 PTA
裾野市	裾野市立千福が丘小学校 PTA
沼津市	沼津市立開北小学校 PTA
御殿場市	御殿場市立南中学校 PTA
小山町	小山町立小山中学校 PTA
富士市	富士市立伝法小学校 PTA
富士宮市	富士宮市立上井出小学校 PTA
富士宮市	富士宮市立富士宮第四中学校 PTA

・中部地区

静岡市	静岡市立中田小学校 PTA
静岡市	静岡市立清水船越小学校父母と教師の会
静岡市	静岡市立清水三保第一小学校父母と先生の会
静岡市	静岡市立城内中学校 PTA
静岡市	静岡市立蒲原中学校 PTA
焼津市	焼津市立大井川東小学校 PTA
藤枝市	藤枝市立岡部中学校 PTA
島田市	島田市立五和小学校 PTA
榛原地区	川根本町立三ツ星学園 PTA
小笠地区	掛川市立大坂小学校 PTA
小笠地区	菊川市立小笠東小学校 PTA
小笠地区	掛川市立桜が丘中学校 PTA

・西部地区

磐田市	磐田東中学校・高等学校父母と教師の会中学部
磐田市	磐田市立豊田北部小学校 PTA
袋井市	袋井市立今井小学校 PTA
浜松市	浜松市立相生小学校 PTA
浜松市	浜松市立追分小学校 PTA
浜松市	浜松市立河輪小学校 PTA
浜松市	浜松市立豊岡小学校 PTA
浜松市	浜松市立赤佐小学校 PTA
浜松市	浜松中部学園 PTA

個人表彰 PTA功労者表彰

(35名) 〈敬称略〉

・東部地区

賀茂地区	山本友也	西伊豆町立仁科小学校 PTA
賀茂地区	柏谷祐也	下田市立白浜小学校 PTA
田方地区	山本哲也	函南町立函南小学校 PTA
田方地区	堀江貴弘	伊豆市立天城中学校 PTA
伊東市	竹内こずえ	伊東市立池小学校 PTA
熱海市	廣瀬雄二	熱海市立多賀中学校 PTA
三島市	宮澤純子	三島市立山田中学校 PTA
南駿地区	坂本志朗	長泉町立北中学校 PTA
裾野市	渡部千華子	裾野市立深良中学校 PTA
沼津市	河口しのぶ	沼津市立第三小学校 PTA
御殿場市	植松峻彦	沼津市立愛鷹小学校 PTA
小山町	芹澤博海	沼津市立第五中学校 PTA
富士市	佐藤吏	小山町立小山中学校 PTA
富士宮市	西川晃央	富士市立吉原第二中学校 PTA
富士宮市	佐藤祐樹	富士市立岳陽中学校 PTA
富士市	小池雅記	富士市立富士川第一中学校 PTA
富士宮市	保坂富男	富士宮市立富士宮第一中学校 PTA
富士宮市	武田明子	富士宮市立富士宮第四中学校 PTA

・中部地区

静岡市	佐野立樹	静岡市立竜南小学校 PTA
静岡市	藤田三佐子	静岡市PTA連絡協議会
焼津市	小林千也杏	焼津市立大井川東小学校 PTA
藤枝市	黒田涼介	藤枝市立葉梨小学校 PTA
榛原地区	横山慎一郎	川根本町立三ツ星学園 PTA
小笠地区	佐藤有希	御前崎市立御前崎小学校 PTA
小笠地区	勝尾周仁	菊川市立菊川西中学校 PTA
小笠地区	平野映美	掛川市立上内田小学校 PTA

・西部地区

磐田市	黒柳加代子	磐田市立福田中学校 PTA
磐田市	新井宏美	磐田市立豊田北部小学校 PTA
浜松市	早川大介	浜松市立県居小学校 PTA
浜松市	平野圭吾	浜松市立広沢小学校 PTA
浜松市	高橋靖博	浜松市立和田小学校 PTA
浜松市	古川大輔	浜松市立入野中学校 PTA
浜松市	鳥居浩幸	浜松中部学園 PTA
浜松市	池谷隆利	浜松市立神久呂中学校 PTA
浜松市	磯部多秀	浜松市立開成中学 PTA

「小さな親切」運動 静岡県本部主催

作文コンクールの入賞者決定

作文コンクールは親切体験を作文に書くことで、子どもたちに人を思いやる心や言葉について、改めて考えてもらうことを目的に昭和51(1976)年よりスタート
本年度は小中学生2,158名の応募がありました。

第13回 「小さな親切」 作文コンクール

入賞者一覧

受賞	校名・学年	氏名	題名
小学生の部	浜松市立気賀小学校 6年	石野綾乃	ドヤ顔リレー
	浜松市立中郡小学校 6年	早津爽汰	親切のレベルアップ
	浜松市立可美小学校 6年	荒川美和	私をかえた魔法の言葉
	浜松市立北浜南小学校 1年	鈴木咲久	かっこいいねんせいになりたいな
	静岡市立清水入江小学校 4年	高田美桜	動くことの大切さ
	浜松市立可美小学校 4年	中村ほの葉	やっと言えた言葉
	浜松市立白脇小学校 6年	大谷紗葵	見えない親切の山
	浜松市立雄踏小学校 5年	田野向日葵	小さな一歩、大きな成長
	浜松市立雄踏小学校 6年	山部美海	親切のお返し
中学生の部	静岡市立城内中学校 3年	青島和	日頃の親切に感謝を
	浜松日体中学校 3年	鈴木まり	「ありがとう」の力
	牧之原市立相良中学校 1年	四ノ宮瑞葵	「小さな心くばりの継続」
	静岡市立城内中学校 3年	田原巧舵	小さな親切から
	静岡県立浜松西高等学校中等部 1年	花岡咲弥	親切は縁の下の力持ち
	静岡県立浜松西高等学校中等部 1年	山本名織	おかげりの贈り物
	静岡市立清水飯田中学校 2年	石原侑依	勇気の道
	静岡市立清水飯田中学校 2年	西ヶ谷莉園	小さな優しさ
	静岡市立清水第七中学校 3年	林潤空	親切は勇気の裏返し

小学生の部



ドヤ顔リレー
浜松市立気賀小学校 六年 石野綾乃

その日の帰り道、私は「ミを拾つてみた。
誰かに言うほどでもない。気づく人もい
ない。だけど祖父のように「自分から働く
ことを、私もやってみたかったから。拾つ
たあの手のひらに、ちょっとだけ勇気が
残った。それから私は、毎週土曜日の朝に
近所を歩いてゴミ拾いをするようになつ
た。いつもより少しだけ静かな時間。でも、
道がきれいになるたびに、心中で「ふふ
ん」と笑いたくなる。祖父に「ゴミ拾い
と素直に言えない。でも、本当はずつと思つ
ていた。「かっこいいな」「私も。じいじみ
「じいじ、また自慢しているよ。」家族の
誰かが言うと、みんなが笑う。もちろん本
人も笑っている。けれど、その顔はやっぱ
りちよつと得意げだ。

私の祖父は、元・市役所職員。今は地域
のコミュニティセンターの館長をしてい
る。でも、ただの館長じゃない。春には捨
てられそうだったひな人形を集めて「ひな
まつりイベント」、夏はかき氷、冬はたい焼
き。野菜や果物をもらえば「〇〇祭り」に
してしまう。広報で紹介して、野菜や果物
をくれた農家さんにも感謝を届ける。草が
のびれば草かり、木がじゃまならチーン
ソーマで出動する。子どもたちと一緒に工
作をしながらおやつを焼いて配る。もはや
「館長」というより、まちの人氣者で、ちょ
と変わったヒーローだ。

そんな祖父の口ぐせは「あーまたいいこ
の日頃の親切に感謝を

（中略）

「夏休みにやるから綾乃もおいで」
私はびっくりした。思いついただけでな
く、本当にすぐに始めるのだ。私は、
そんな祖父がまぶしくて、正直ちよつとだ
けくやしかつた。私はまだ何もしてい
ない。ただの「いいなあ」で終わっていた。

中学生の部



日頃の親切に感謝を
静岡市立城内中学校 3年 青島和

あおしま
なみ

（中略）
私は、本当に楽しい時間だった。おじいさんの
お孫さんの話や私たちの祖父母の話、私たち
が通っている書道教室の話。つい時間を忘れ
てしまふほど、たくさんのこと話をした。そ
れは本当に楽しい時間だった。
中学生になり、勉強や部活で忙しく書道教
室へいくのが少なくなり、おじいさんに会わ
ない日が続いていた。久しぶりにおじいさん
に会いたいと思い、冬休みに小学校の頃のメ
ンバーで電気屋さんを訪れる。もうおじい
さんの姿はなかった。おじいさんの妻である
おばあさんは目に涙を浮かべてそう言つた。
おばあさんは目に涙を浮かべてそう言つた。

私はおじいさんの優しい笑顔を思い出し、と
ても後悔した。もっとおじいさんに会いに行
けばよかった。そして、おじいさんの優しさ
や私たちしてくれた親切に感謝すればよ
かった。
誰かがしてくれる小さな親切は、当たり
前にあるものではない。親切にする本人に
とっては、当たり前にできるこかもしれない
が、それを当たり前に受けとつてはいけ
ない。受けとる人は、感謝をするべきであ
る。「こんな大事なことに、私はおじいさんを
失つてから気がいたのだ。革手だったトマト
ジュースをおじいさんとの思い出深い味に
変わった。
大切な人を失つてから「もっとその人に感
謝すればよかった」と後悔しないよう、日頃
から自分してくれた親切に当たり前に受け
取らず、感謝の意を伝えていきたい。そし
て、おじいさんがしていたように誰かを思い
やる気持ちを持つ」と忘れず、小さな親切
を当たり前にできる大人になりたい。

（中略）
ニンニンニー。今年もセミの声によつて
より苦しく感じる夏の暑さが、私の体を疲れ
させる。そんなとき、ふと思つた。
「またトマトジュースが飲みたい」
小学生の頃の夏休み、私は毎年姉と妹と
友達と一緒に書道教室へ通つていた。耐え
られないほどの暑さだったにもかかわらず、
私たちは速足で教室へ向かつていた。教室へ
行くまでの道で、年配の方が経営している電
気屋さんがあった。そのおじいさんはいつ
も、私たちに会うと团扇をくれた。そして、
冷房のきいた店内に入させてくれて、トマト
ジュースを飲ませてくれた。当時、私は酸味
が強いトマトジュースが少し苦手だったた
め、おじいさんお優しい気持ちをありがたく
頂戴した。その電気屋さんに飾られている書
き初めの作品は、自分の孫が書いたものだと
おじいさんは誇らしげに語つていた。それか

（中略）
おじいさんはは前よりやつれていて、顔色
が悪かつた。
おじいさんは、つい最近亡くなつてしまつ
たんだよ。あなたたちが来るたび、幸せそう
にしていたよ。ありがとう。一
おばあさんは目に涙を浮かべてそう言つた。

令和7年度
「小さな親切」
あいさつ運動

みんなで咲かせるあいさつの花
挨拶について考えることを通して

松崎町立松崎小学校
松崎町立松崎中学校

松崎町立
松崎中学校区

みんなで咲かせるあいさつの花

松崎町立松崎小学校 教諭 武内甫擁



毎朝企画委員が昇降口でのあいさつ運動

年間を通して、企画委員会（高学年）が中心となって、毎朝のあいさつ運動に取り組み、学校全体の雰囲気を明るくすることを目指しています。活動のテーマを「みんなで咲かせるあいさつの花～笑顔の栄養で成長させよう～」とし、昇降口付近で元気よくあいさつを交わすことを通じて、子供たち同士の心の交流が深まり、礼儀正しさや思いやりの心が育まれてきています。

また、企画委員会の児童が創意工夫を凝らし、「相手に聞こえる声でのあいさつ」を通じて、子供たち同士の心の交流が深まり、礼儀正しさや思いやりの心が育まれてきています。

さらに、企画委員会の児童が創意工夫をする「大きな声ではっきりとあいさつをする」といったポイントを記したポスターを掲示し、子供たちへの意識付けを行っています。

この取組は、子供たちの人間関係を豊かにし、地域社会とのつながりを深めることにも寄与しています。松崎小学校では、今後も継続的にあいさつ運動を推進していきます。



大きな声で元気にあいさつしよう

挨拶について考えることを通して

松崎町立松崎中学校 教諭 山浦敬介



生徒総会で挨拶について意見を交わしました

令和7年度松崎中学校前期生徒会は、活動方針「友情・全力・発言」と、本校の伝統である三本柱「合唱・清掃・挨拶」を軸に活動しました。生徒会執行部は、挨拶を本校の強みにしたいと考え、生徒総会の場で、挨拶の在り方について全校生徒で意見を交わすことを計画しました。生徒はまず学級で話し合い、意見をまとめ、生徒総会に臨みました。各学年それぞれの立場や考え方をもち、多くの生徒が積極的に討論に参加しました。挨拶はコミュニケーションの基本であるため、討論の結果、学年や関係性を問わず、誰とでも挨拶できるようになることを目指すようになりました。

その後、生徒会執行部は、目標を達成するために、全年年混合の小集団を作つて挨拶運動を行うことを提案、実行しました。活動を通じて、これまで話したことのない生徒同士の交流や、朝の気持ちを共有する」、「大きな声ではっきりとあいさつをする」といったポイントを記したポスターを掲示し、子供たちへの意識付けを行っています。

さらに、全校児童の生活目標として「大きな声で元気なあいさつしよう」を設定し、登下校時や学校内外のさまざまな場面で相手に気持ちが伝わるあいさつを心掛ける指導も実施しています。特に、バスの中や通学路など、日常のさまざまな場面でのあいさつの大きさを伝え、子供たちの社会性やマナーの向上を促しています。

この取組は、子供たちの人間関係を豊かにし、地域社会とのつながりを深めることにも寄与しています。松崎小学校では、今後も継続的にあいさつ運動を推進していきます。

この取組は、子供たちの人間関係を豊かにし、地域社会とのつながりを深めることに寄与しています。松崎小学校では、今後も継続的にあいさつ運動を推進していきます。



全年年混合の小集団による挨拶運動

令和7年度
「小さな親切」
あいさつ運動

目指せ！あいさつ名人

あいさつは 笑顔咲かせる 花になる

川根本町立三ツ星学園

川根本町立光の森学園

川根本町

目指せ！あいさつ名人

川根本町立三ツ星学園 教頭 鈴木高広

三ツ星学園。この名前を聞いて何を想像しますか？私立の学校と思われるかもしれません。が、開校二年目の町立の義務教育学校です。一年生から九年生の179人が在籍している山間部の学校です。

まず、あいさつ運動協力校となるにあたつて P.T.A.総会や学校だよりで保護者にも周知することにより、学校全体であいさつ運動を行うことを確認しました。

具体的に本校があいさつ運動に関して実践していることは三つあります。

一点目は、「あいさつ名人」の取組です。この取組は、学期末に児童生徒が、あいさつ大きな声で自らしている人を推薦し、票が多い児童生徒を表彰するものです。一学期に続き、二学期も票が多くかった児童生徒は、「あいさつ達人」に、三学期も票が多くかった児童生徒は、「あいさつ王」とレベルが上がっています。「名人」「達人」「王」に選ばれた児童生徒は終業式で紹介され、学校だよりにも名前を紹介しています。



具体的に本校があいさつ運動に関して実践していることは三つあります。

一点目は、「あいさつ名人」の取組です。この取組は、学期末に児童生徒が、あいさつ大きな声で自らしている人を推薦し、票が多い児童生徒を表彰するものです。一学期に続き、二学期も票が多くかった児童生徒は、「あいさつ達人」に、三学期も票が多くかった児童生徒は、「あいさつ王」とレベルが上がっています。「名人」「達人」「王」に選ばれた児童生徒は終業式で紹介され、学校だよりにも名前を紹介しています。

まず、あいさつ運動協力校となるにあたつて P.T.A.総会や学校だよりで保護者にも周知することにより、学校全体であいさつ運動を行うことを確認しました。

具体的に本校があいさつ運動に関して実践していることは三つあります。

一点目は、「あいさつ名人」の取組です。この取組は、学期末に児童生徒が、あいさつ大きな声で自らしている人を推薦し、票が多い児童生徒を表彰するものです。一学期に続き、二学期も票が多くかった児童生徒は、「あいさつ達人」に、三学期も票が多くかった児童生徒は、「あいさつ王」とレベルが上がっています。「名人」「達人」「王」に選ばれた児童生徒は終業式で紹介され、学校だよりにも名前を紹介しています。

ながら子供たちを迎えます。あいさつができるか？私は思っていませんが、もしもそれが、開校二年目の町立の義務教育学校です。一年生から九年生の179人が在籍している山間部の学校です。

あいさつは 笑顔咲かせる 花になる

川根本町立光の森学園 教諭 青山円香

令和7年度松崎中学校前期生徒会は、活動方針「友情・全力・発言」と、本校の伝統である三本柱「合唱・清掃・挨拶」を軸に活動しました。生徒会執行部は、挨拶を本校の強みにしたいと考え、生徒総会の場で、挨拶の在り方について全校生徒で意見を交わすことを計画しました。生徒はまず学級で話し合い、意見をまとめ、生徒総会に臨みました。各学年それぞれの立場や考え方をもち、多くの生徒が積極的に討論に参加しました。挨拶はコミュニケーションの基本であるため、討論の結果、学年や関係性を問わず、誰とでも挨拶できるようになることを目指すようになりました。

その後、生徒会執行部は、目標を達成するために、全学年混合の小集団を作つて挨拶運動を行うことを提案、実行しました。活動を通じて、これまで話したことのない生徒同士の交流や、朝の気持ちの良い挨拶が増えたように感じます。挨拶について考えることで、生徒会執行部活動方針の一つである「友情」を、学年という横つなぎだけでなく、学年をまたいだ縦の繋がりにしていくという意図も感じられました。「自分たちの学年から挨拶の伝統を創ろう！」という声が上がった学年や、独自の企画として、誰にでも気持ち良く挨拶することを促すポスターを作成した学年もありました。何気なく行っている挨拶を見直す良い機会になりました。今後さらに挨拶の輪が広

がり、それに伴つて生徒一人ひとりの成長やより活気溢れる松崎中学校へと発展していくことを期待しています。



令和7年度
「小さな親切」
あいさつ運動

あいさつで つながる心 笑顔の輪
あいさつで 笑顔広がる まちづくり

静岡市立長田南中学校
浜松市立丸塚中学校

静岡市立
長田南中学校区

あいさつで つながる心 笑顔の輪

浜松市立
丸塚中学校区

あいさつで 笑顔広がる まちづくり

本中学校区は地域ぐるみで子どもを育てていこうというあたかいムードがあります。自らと学校との連携・福祉協議会によるボランティア活動が活発に行われる中、地域にいる長田南中学校・長田東小学校・川原小学校の3校の子どもたちはすくすく成長しています。

【あいさつの意味を考えてみる取り組み】

各小学校では、「あいさつ」する意味や必要性についての考え方を話し合った授業が行われました。これは、「なんであいさつしなきゃいけないの?」という一人の子どものつぶやきから始まつたものです。授業では、「あいさつを交わすことで、心がほっこりする」、「あいさつが自然に行えるような人間関係が居心地がよい」「礼儀として必要なこと」などの意見が出され、発表する姿もそれを聞く姿も真剣そのものでした。あいさつのする理由を考えたこの授業は、次の日から、子ども主体的な行動に変わりました。「あいさつをして返してくれない」と不満を口にしていた子どもが、「あいさつを返してくれなよ」と(あいさつを)いる自分が気持ちいいから、それでいい」という考え方へ変わったのは、その顕著な例だと見えます。



中学校では、今年度11月26日に、全校道德とP.T.A活動をコラボさせた企画「あいさつ講演会」を開催しました。こぼを大事にされていて、各方面で大人さんの人たちと対面された経験をもつ方の代表として、ラジオパーソナリティの橋正純氏を学校にお招きし、「あいさつでこんなにHAPPYになれる」というテーマで講演いただきました。会場には、中学生だけでなく、その保護者・地域の方方が参加し、会場のみなが、「あいさつっていいのだけ」という認識を得る機会となりました。

【あいさつ運動を地域に広げることの難しさ】

本あいさつ運動の目的に、「心の通う社会の実現を図る」とあります。この運動を推進するまでの難しさを感じるのは、子どもたちに「あいさつしても、警戒して、あいさつを返してくれない」という学校が集まって開催された、コミュニケーションスクール会議内の発言でした。地域の方と子どもたちは見知らずという訳ではないけれど、不審者による声掛け事案と思つてしまつともだちに対しても、どうしたらよいかが、

本中学校区は地域ぐるみで子どもを育てていこうというあたかいムードがあります。自らと学校との連携・福祉協議会によるボランティア活動が活発に行われる中、地域にいる長田南中学校・長田東小学校・川原小学校の3校の子どもたちはすくすく成長しています。

【あいさつの意味を考えてみる取り組み】

各小学校では、「あいさつ」する意味や必要性についての考え方を話し合った授業が行われました。これは、「なんであいさつしなきゃいけないの?」という一人の子どものつぶやきから始まつたものです。授業では、「あいさつを交わすことで、心がほっこりする」、「あいさつが自然に行えるような人間関係が居心地がよい」「礼儀として必要なこと」などの意見が出され、発表する姿もそれを聞く姿も真剣そのものでした。あいさつのする理由を考えたこの授業は、次の日から、子ども主体的な行動に変わりました。「あいさつをして返してくれない」と不満を口にしていた子どもが、「あいさつを返してくれなよ」と(あいさつを)いる自分が気持ちいいから、それでいい」という考え方へ変わったのは、その顕著な例だと見えます。

これまでにあり意識してこなかつた「会話」を、諸活動の中に意図的に組み入れてみることを始めました。例えば、地域金体が美化活動に取り組む「5月のクリーン作戦」。地域をきれいにするという目的も大事だけど、地域の絆を深める」とを目的として明確にし、主体となる中学生には「地域の方との会話を楽しもう」と働きかけました。実施後のアンケート調査では、「地域の美化に貢献できた」とい満足感の他、「地域の方との交流が楽しかった」次の機会ではもっと話しかけたい」とする回答が多くみられることは大きな収穫でした。顔馴染みになることで、大人から子どものへのあいさつも、子どもから大人へのあいさつも期待できるし、中学生が地域の方にあいさつをしている姿を見た小学生も、安心してあいさつ運動に加わるのではないか、という期待ができます。12月に行われる地域防災でも実践する予定です。このように方向性を探るような試行ばかりでしたが、2年目は、地域全体で、その取り組むべき道の実現に邁進する1年になる、そんな手応えを感じた指定1年目となりました。

丸塚中学校区におけるあいさつ運動は、教職員と地域の皆様が協力し、児童・生徒の健全な育成を目指して展開されています。現在、この取組は地域社会との連携を深めることで、学校の環境整備と児童・生徒の意識啓発に大きな成果を上げています。そこで、青少年健全育成会やいい声掛けデーといった活動を通しての取組の現状について述べます。

【運動の成果と学校内での現状】

本校のあいさつ運動は、主に教職員や地域の方が中心となり、登校時の校門等で実施されています。教職員があいさつの模範を示すことで、児童・生徒が自然とこれに倣う環境を作り出しています。また、教職員や地域の方々からの声掛けにより、学校の門をくぐる際の雰囲気が格段に明るくなりました。児童・生徒の中には、「登校時に声をかけられると安心する」という声もあります。また、教職員や地域の方々から、「あいさつ運動を、教職員や地域の役割として終わらせず、児童・生徒一人一人が『あいさつは自分の役割だ』と感じ、自発的に取り組む姿勢をどのように育むか」といった課題がみられます。

登校時だけでなく、下校時や学校内、教職員・地域の方々が活動できない時間帯や場所でも、児童・生徒が自発的にあいさつを交わせる環境づくりの構築

今は、「いい声掛けデー」を通じて、あいさつの意義を児童・生徒に繰り返し伝え、児童・生徒が自らあいさつを実践したくなるようになります。本校のあいさつ運動が、地域社会の温かい協力のもと、児童・生徒たちは学校外の大人に対しても自然にあいさつを交わす姿勢が培われています。青少年健全育成会からは、通学路での児童・生徒の様子に関する客観的な評価やあいさつの状況についての貴重なフィードバックをいただいていることなどを願っています。

丸塚中学校区のあいさつ運動の最大の強みは、地域全体を巻き込んだ、温かい活動を展開している点です。丸塚中学校区では、地域の青少年健全育成会やP.T.Aと密接に連携し、あいさつ運動を「地域の子供を地域で育てる」という理念に基づいた活動として位置づけています。青少年健全育成会のメンバーは、年間3~5回程度、教職員やP.T.Aと連携したあいさつ運動に積極的に加わってくださっています。地域の大人们が校門や通学路に立つことで、児童・生徒たちは学校外の大人に対しても自然にあいさつを交わす姿勢が培われています。青少年健全育成会からは、通学路での児童・生徒の様子に関する客観的な評価やあいさつの状況についての貴重なフィードバックをいただいていることなどを願っています。



「いい声掛けデー」は、青少年健全育成会のメンバーを中心とした活動を通じて行われる活動です。この取組は、活動を通じて「あいさつ」だけでなく、「相手を気遣う一言」や「感謝の気持ちを伝える」との重要性が教職員と地域の間で共有され、児童・生徒への温かい眼差しが増す結果となっています。

【今後の展望と課題】

現在の取組は、地域との連携という点で大きな成果を上げていますが、これを真の学校文化とするために、次のような課題がみられます。
・あいさつ運動を、教職員や地域の役割として終わらせず、児童・生徒一人一人が「あいさつは自分の役割だ」と感じ、自発的に取り組む姿勢をどのように育むか
・登校時だけでなく、下校時や学校内、教職員・地域の方々が活動できない時間帯や場所でも、児童・生徒が自発的にあいさつを交わせる環境づくりの構築

東から西から

県PTA紹介

- ・御殿場市立御殿場中学校 PTA
- ・静岡市立賤機中学校 PTA
- ・浜松市立相生小学校 PTA

PTAが子たちのためにできること

御殿場市立御殿場中学校
令和7年度 PTA会長 北村和之

御殿場市は、今年で市制施行70周年を迎えるましたが、御殿場中学校の歴史は、それよりももっと古く、昭和2年の創立以来、地域と共に歩み続けてきた伝統ある学校です。全校生徒654人が在籍し、1学年が6～7クラスある市内一番大規模な学校で「猛志篤行」の校訓のもと、高い志と誠実な行動を大切にしています。



今年度の特徴ある行事として、2年生は学校で宿泊行事を行い、活動の一環として避難所体験を実施しました。市内に、3つの陸上自衛隊の駐屯地を要するところから、自衛隊のまちとしての特色もあり、自衛隊や地元消防団女性部の支援のもと、道路のマンホールから取水する、沿線支援や炊き出しによる炊事支援など、地域の防災リーダーの皆さんとともに、まさに子どもたちは、「生きる力」を実感する御殿場らしい貴重な学びとなりました。

そつした中で、PTAは、学校と家庭との緊密な連携を図るために組織としてあります。御殿場中学校PTAは、6名の役員で構成される理事会をはじめ、施設管理部や校外生活部、成人教育部、家庭教育学級などの専門部と、学年ごとに配置される学年部会など、多くの保護者の協力により運営されております。

具体的には、施設管理部を中心に子どもと保護者による奉仕作業や、校外活動での見守り、成人教育部では、PTA新聞の編集・発行を行っています。また、学年部会では、学校行事が円滑に運営されるようサポートし、学校との連携を図っています。

最後に、こうして学校と子どもたちに関わられる

良い思い出になるよう、これからも学校とPTAが一層連携してまいりたいと思います。

中でも特に精力的に活動しているのが、家庭教育

育学級の「やまなみ学級」です。生涯学習の一環

地域との連携を大切にする第4ブロック

静岡市立賤機中学校
令和7年度 第4ブロック理事 小林千晶

として、「家庭教育の充実」を図り、学校や地域と連携し、それぞれが持つ教育機能を発揮することで、子供たちの健やかな成長を目指しています。

活動内容は、レクリエーション活動や高校見学など、様々な学習を通じて、新しい時代の家庭教育のあるべき方向や家庭が果たす役割などを確認することを活動の柱としています。

さらに、子どもたちがホッとできる居場所を作るため、年間のお花当番を決め、校内の廊下やトイレなど数ヶ所へ、花瓶にした花とともに愛情のこもったメッセージフラッグを配置していく

ます。この歴史は古く、20年以上受け継がれています。また、本校が令和5年度から静岡県教育委員会の研究指定を受け、不登校やいじめ等の未然防止を目的とする「居心地のよい学校づくり」に取り組んでいます。中でも梅ヶ島小中学校は来年度から大河内小中学校と統合する

ことがすでに決定しており、学校のみならずPTA同士の話し合いも順調に進んでいます。そこで、PTAの活動は、地域との深い関わり、そして何より子どもたちのこれからのことを考えると、統合する。そのため、このままでは、PTAの活動は、地域との連携が大変難しい選択になります。それでも候補地のPTAを中心とした地域の皆さんが一丸となって、子どもたちの未来を第一に考えて行動されている姿勢に、ただただ敬服します。いずれの決断も地区の輝かしい未来に向けての一歩となると信じています。

そのような状況下で年に一度ブロック活動を行つにあたり、第4ブロックでは「子どもが楽しめる」子どもを中心としたイベント

を心がけて開催し、各学校との交流を図つ

ています。今年度は、少し真面目なイベントを

：「防災セミナー」を9月13日に賤機中学校

で開催しました。あいにくの大雨でしたが、「災害は天気を選ばない！」を合言葉に単刀会長さんや千代田消防局の皆さんをはじめ、地域の防災組織である「しそなん防災女子部」の皆さんにもお手伝いいただきました。アイラップでの防災食作り（ご飯と蒸しパン）、煙体験・水消火器体験・AED体験・簡易トバーアクションなどを盛りだくさんの内容でしたが、初めての体験にドキドキしながらチャレンジする子どもの姿が印象に残りました。また、地域の防災組織に参加いたただくことで訓練の一環になりました。終了後のアンケートでも「家庭での防災意識の向上に繋がった」と答えた方が92%と非常に高く、とてもやりがいを感じる活動でした。

南海トラフ大地震だけでなく、線状降水

帶による被害も多くあ

り、今年は牧之原市などで竜巻による重大な

被害が出るなど、改めて自然の怖さを感じま

した。第4ブロックは

山間地特有の土砂崩れ

による孤立や水害など

も考えられます。いざ

といふ時のために各家庭で備えるのはもちろ

んですが、日頃から「学

校」と「PTA」「地域」

が連携して信頼関係を

築き、有事など大変な

ときにはお互いに助け

合うことが出来るよう

に、これからも活動を

続けていきたいと思い

ます。

御殿場市は、今年で市制施行70周年を迎えるましたが、御殿場中学校の歴史は、それよりももっと古く、昭和2年の創立以来、地域と共に歩み続けてきた伝統ある学校です。全校生徒654人が在籍し、1学年が6～7クラスある市内一番大規模な学校で「猛志篤行」の校訓のもと、高い志と誠実な行動を大切にしています。

今年度の特徴ある学校行事として、2年生は学校で宿泊行事を行い、活動の一環として避難所体験を実施しました。市内に、3つの陸上自衛隊の駐屯地を要するところから、自衛隊のまちとしての特色もあり、自衛隊や地元消防団女性部の支援のもと、道路のマンホールから取水する、沿線支援や炊き出しによる炊事支援など、地域の防災リーダーの皆さんとともに、まさに子どもたちは、「生きる力」を実感する御殿場らしい貴重な学びとなりました。

そつした中で、PTAは、学校と家庭との緊密な連携を図るために組織としてあります。御殿場中学校PTAは、6名の役員で構成される理事会をはじめ、施設管理部や校外生活部、成人教育部、家庭教育学級などの専門部と、学年ごとに配置される学年部会など、多くの保護者の協力により運営されています。

具体的には、施設管理部を中心に子どもと保護者による奉仕作業や、校外活動での見守り、成人教育部では、PTA新聞の編集・発行を行っています。また、学年部会では、学校行事が円滑に運営されるようサポートし、学校との連携を図っています。

最後に、こうして学校と子どもたちに関われる

良い思い出になるよう、これからも学校とPTA

が一層連携してまいりたいと思います。

最後に、こうして学校と子どもたちに関わる

貴重な時間をいただいていることに感謝

し、これからもPTA活動に携わっている

貴重な時間になります。

最後に、こうして学校と子どもたちに関わる

貴重な時間になります。

見せよう！大人の背中

浜松市立相生小学校

令和6年度 PTA会長 森田 賢児

「見せよう！大人の背中」に基づき、役員一同で様々な事業を実施いたしました。まず、この突破口に込めた思いですが、「一言で言えば、教育における保護者の主体性を再確認することにありました。教育基本法でも、教育の一義的な責任を有するのは保護者とされていましたが、それと裏腹に、何か問題があると、学校が連携する学校づくりを推進していますが、これも保護者の主体性を欠いては、その意義を成すことはありません。私達、保護者が教育の当事者であることを再確認し、社会教育関係団体として主体的な活動をしていく意気込みを現したもので、現在のPTAは、大人の消極的な論理で語られることが目的である。その原点に回帰することが重要になります。



さて、この思いを具現化すべく、早々に導入したのが相生小ウエル・ビーリングでした。端的に「幸福度」を表すウェルビーイングですが、我々はPTA事業を実施する度に、児童や保護者に対しアンケート形式で、その満足度を聴取していました。結果は驚くことに、満足度として、百点中九十九、五点に上りました。これが、事業のみならずPTAの存在意義を見える化することにつながりました。また役員の意識向上にも直結いたしました。確かに、企画から準備、事業実施、事後処理まで大変だけども「子ども達が喜んでくれるなら」と前向きに取り組んできれるようになりました。さらに推進したのが、地域の一体感を醸成する事業です。本校では従前から、「親子奉仕作業」という事業があります。その名通り、休日に親子で学校の清掃

活動を行つもので、児童にとっては「自分たちの学校を」保護者にとっては「我が子の通う学校を」美化することに努めるものですが、ここにもう一層、地域の人を加えました。具体的には地元自治会長や学校運営協議会委員、学校ボランティアの皆様です。地域の人にとって「自分たちの地域の学校」として関わってもらうことを目的としました。

もともと、地域の関りが深い当該校区ですが、近年全国的に言われている地域コミュニティの衰退については、決して例外視できない状況にあります。これらは一見すると私達の生活に与える影響は小さいように思えますが、伝統文化の継承が困難になることや、災害時の地域防災機能の低下など、帰するところは児童生徒の学習の場だけに留めず、地域コミュニティの核として機能を充実させていくことも重要です。その一端を担つたのが、重点事業として位置付けた「親子奉仕作業 地域連携版」でした。

種々取り組みを紹介させていただきましたが、総じて思つるのは、良き子育て環境とは誰かから与えられるものではなく、私達一人一人が主体的に創つていくものだと言つことです。PTA活動はそれを体現できる優位性を有しています。子ども達に模範を求める前に、我々大人が前向きに教育活動に参画することで、その背中を見せて行こうではありませんか。

令和8年度 行事予定

実施予定日	内 容
令和8年4月22日（水）	会計監査
5月22日（金）	R7 第6回三役会・理事会 令和8年度定期総会
6月12日（金）	第1回三役会・理事会
6月19日（金）	第1回事務局長会議
7月3日（金）	広報紙コンクール審査会 第1回地区P連会長等研修会
8月7日（金）	第2回三役会・理事会
10月2日（金）	標語コンクール審査会 第3回三役会・理事会
11月28日（土）	静岡県PTA研究大会浜松大会
12月12日（土）	第4回三役会・理事会 第2回地区P連会長等研修会
令和9年1月15日（金）	第2回事務局長会議
3月5日（金）	第5回三役会・理事会
4月22日（木）	会計監査
5月21日（金）	第6回三役会・理事会 令和9年度定期総会

予告

第71回

静岡県PTA研究大会

浜松大会

開催期日

令和8年11月28日(土) 午後

会 場

アクトシティ浜松 大ホール

内 容

(予定)

①開会式

②アトラクション

③研究実験委嘱PTA発表

④記念講演

⑤閉会式

